

表現活動集団 玄～てんてこ舞い～

さぬき生活文化振興財団助成 夢船2024 ～求吾と喜八の物語～

活動報告

今回の活動目的と工夫と成果

① 文化芸術活動を通して「共感」や「伝えあう喜び」を共有できる身近な場をつくる。

<工夫>

- ・限られた練習時間を有効活用するために、台本や音楽の変更、活動予定など詳細が常に情報交換できるようにした。今回は、7月18日の総会、作品検討会の実施を皮切りに台本改良や基礎練習等をスタートした。
- ・公演で地域の歴史物語に取り組むことを紹介することで協力者を募る。
- ・歴史について多面的に学び、より登場人物の思いや心情の変化に寄り添う作品とする。
- ・小中高生により多く観劇してもらうために、夏休みに入る日程とした。
- ・手話ソングを会場全体で歌えるように、楽譜のプログラム掲載、歌詞のプロジェクター提示を行う。
- ・新しい会員の参加を呼びかける。

<成果>

- ・公演は2回目であるが、会員同士が協力して、伝えるための工夫を凝らす場面が見られた。
- ・この活動の意図に賛同して、演者や舞台制作のあらゆるパート（衣装、メイク、音楽アレンジ等）で、自分のできること、またやってみたいことで参加を希望する方が加わった。
- ・地域の方から、歴史物語に必要と思われる衣装や道具の提供があった。
- ・古文書の会から登場人物に関する資料を提供してもらった。会員が定期的に学習会に参加した。
- ・中学生については総体と重なり参加が少なかったが、観音寺市内の小中高等学校に足を運び意義を伝えた。
- ・ラストの手話コーラスの場面では、共に手話を模倣して参加してくださる観客が増えた。
- ・地域から演者24名、制作(台本、作曲、アレンジ、舞台)7名、運営4名、撮影4名が参加。

② 地元地域に貢献した人々の歴史を元に、人々の絆や日々の暮らしの大切さを再確認できる公演を行う。

<工夫>

- ・歴史をなぜ学び知る必要があるのかに気付けるよう、小中学校の歴史の教科書に出てくる馴染みのある歴史上の人物の紹介から物語をスタートさせる。
- ・登場人物の子どもが大人になるまでの過程における葛藤や気づき分かる成長物語を加える。(脚本の改良)

・今も昔も人と人が関わり合って生活を営み、どんな困難が訪れてもそこに光を見出してきたことが伝わるよう、今を生きる私たちの暮らしと重ねる場面を作る。

<成果>

・どんなに科学や文明の発展があったとしても、日々の暮らしの中にある困難や生きづらさは必ずある。それに気づきチャレンジを試みた人たちが歴史を作ってきた。今を生きる名もなき私たちが、歴史を作っている最中なのだと感じてもらえたかと思う。

・なりたい自分を見つけ、将来の夢をもてる子どもや大人になりたい。そのための気づきは、家族や仲間から得られることが伝えられたように思う。

・人は弱くて強い。それを支えるのが信じられるものやこと、そして人であることがそれぞれの人生に重ねて共感することで再確認できたのではないか。

表現活動集団 玄 てんでこ舞い ミュージカル GEN 玄

夢船 2024

ゆめふね 船

～ 求吾と喜八の物語～

みんなの笑顔が見たいから
夢を叶える旅に出る。

脚本・演出：玄飾
音楽監督：JIRO海田
原作：こうだよしひろ

多田ゆらぎ

日時 2024年 7/21日 開演14:00 (開場 13:30)

場所 ハイスタッフホール(観音寺市民会館) 小ホール

主催：市民活動団体 表現活動集団 玄 てんでこ舞い
後援：観音寺市教育委員会
助成：さめき生活文化振興財団

表現活動集団 玄 てんでこ舞い ミュージカル

夢船 2024

ゆめふね 船

～ 求吾と喜八の物語～

時は、今から300年前の江戸時代中期。これは、現在の豊浜町和田浜で生まれ、地域を支える力となった合田求吾と藤村喜八郎の成長物語です。求吾は重い病も治療できる医者になりたいと、はるばる京都、江戸、長崎に学びます。そこで誰かが知っている杉田玄白、平賀源内、吉雄耕牛らとの出会いから、学び取ったものは…。一方、親友の喜八は、交易の繁栄を目指して、和田浜港の改修工事に乗り出します。丸亀藩、京極の隠様になんとか掛け合おうとする喜八の運命は…。二人は、幼い頃から周囲の人々の暮らしや生き様を見つめ、自分の進む道を模索し、それがみんなの笑顔のためのチャレンジへとつながっていきました。この二人を理解し、支えていく家族や友、そして、生涯の伴侶である「りん」と「はる」。みんなの願いを乗せて、今、二人の夢船が出航します。

歴史は私たちの身近な所で生まれ、現代へとその思いをつないでいます。今回は、地域を支えたいという自分の夢を叶えるために、悲しみや困難に負けず、江戸時代を強く生きた二人の挑戦者の物語です。もしも、ここで出会っていたら、という時間の差や、歴史にはない可能性も物語の中に散りばめました。

あなたの夢は何？ あなたの船出はいつ？ 海風に舞われたらどう思いますか？ 私たちは生きている限り、いつでも船出が出来ます。いつかどこかで、同じ想いの誰かと出会ったら、気がつけば一人ではないはず。今日の出会いが、皆さんの新しい第一歩につながることをお祈りいたします。

一緒に表現活動しませんか？

玄 てんでこ舞い～の「玄」は目には見えにくけれども大切なこと、また「はじまり」を意味します。私たちは夢を見て、いつかめようとするチャレンジを応援したい。そして、てんでこ舞いな時間を楽しみたいのです。私たちは、観音寺市の市民活動団体に登録しています。地域の生活の中の物語を見つけてミュージカル表現を通して、地域の方々にその価値を伝えていこうとしています。自分の得意なこと、始めていただけややってみたいこと、自分の中のポテンシャルに出会える活動です。みんなでも楽しくチャレンジしましょう。

夢船 - ゆめふね - の歌

作詞 合田ゆん子
作曲 海田次朗

今 海風がささやく
君の船出はいつ？
今は小さな船
精一杯帆を張る
風を集めて渡りきる
どこまでも青い空
どこまでも白い雲
それぞれの夢
振り向けば白い軌跡
繋がっていく
三人の夢船は
さつといつか
時を超えて
誰かの港に
明かりを
灯すのだろうか
さあ行くろう！
今ここから

玄 てんでこ舞い～ 会員一同
参加希望の方はお知らせください。





アンケートより

アンケート集計結果 ミュージカル「夢船 2024」 2024/07/21（実施）

性別と年齢とのクロス集計 約 300 名の観客の内 188 名のアンケートの記入があった。

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以	無回答	合計
男性	2	1	4	4	14	9	16		50
女性	7	3	6	11	19	40	45	2	133
無回答				1	1		1	2	5
合計	9	4	10	16	34	49	62	4	188

※ 50 歳代以上が多い。また、女性が多い。若年層や男性に観客の幅を広げたい。

夢船の公演を鑑賞した回数			
初めて	昨年も観た	未回答	合計
109	75	4	188

※ 半数近くの人が、昨年に引き続き公演を観てくださり、初めての方も半数以上観劇してくれた。

1年間にミュージカルを観る回数							
0回	1回	2回	3回	4回	5回以上	未回答	合計
63	56	47	19	0	1	2	188

※ 芸術文化に接する機会が少ない地域であり、ミュージカルへの認知度は低い。

ミュージカルをどこで知ったか。（複数回答あり）					
劇団員からのチラシや話	〇〇に置かれていたチラシ	知り合い友人からの口コミ	SNS	未回答	計
110	4	68	7	10	199

※ほとんどが口コミ情報ということで、人と人の繋がりが生まれていると言えるが、新しい繋がりを広

公演を観ての感想

- ① 大変良い ② 良い ③ あまり良くない ④ 全く良くない ⑤ 未回答

芝居について					
①	②	③	④	⑤	合計
106	69	4	0	9	188

音楽について					
①	②	③	④	⑤	合計
114	61	4	0	9	188

ダンスについて					
①	②	③	④	⑤	合計
115	63	1	0	9	188

衣裳について					
①	②	③	④	⑤	合計
101	73	5	0	9	188

物語について					
①	②	③	④	⑤	合計
105	71	3	0	9	188

公演全体について					
①	②	③	④	⑤	合計
109	65	3	0	11	188

※自由記述では、今後の活動を応援し、また観たいという声が多かった。次回作品への希望欄では地域の歴史や地域に関する題材が観たいという要望もあった。この作品からは、「発見の喜び」や「故郷への誇り」や「元気」を感じていただけたようだ。「いま・ここ」で共に生きている実感が得られたことを願いたい。

今後の課題と工夫

- ① 作品作りでは、特別ではなく日々の生活の中にある小さな変化や面白いものやことに気付ける心をもち続けたい。今の生活と江戸時代の生活を結びながら新しい地域の物語を制作したい。
- ② アンケートからも分かるように、より多くの子どもたちに観てもらえるように、次回公演は夏休みの8月に実施する。また、地元を離れて生活している帰省中の家族にも観劇を勧めたい。
- ③ 演者と観客の距離感を縮めて、より参加型の公演にする。
- ④ 演者は、心と体を自分なりに育てることで、それぞれの伝えられる「こと」をまず一つ作り上げていく。
- ⑤ 公演での気付きや共感、発想などを知るために、演者、スタッフ、観客へのより良いアンケート項目を検討し、実施と考察をする。

謝辞：さめき生活文化振興財団様には多大な助成をいただき、無事に公演を実施することができました。

今後も生活の中の何気ない幸せに気付いたり、より良くする方法を発見したりできることを伝えていけると玄〜てんてこ舞い〜同力を合わせて活動してまいります。心から感謝の意をお伝えしたいと思います。